

阪南市埋蔵文化財報告XVII

飯ノ峯畠遺跡

—阪南都市計画道路事業箱作駅前線建設に伴う埋蔵文化財調査概要—

1993年

阪南市教育委員会

はしがき

阪南市は大阪府の南部に位置し、大阪市のベッドタウンとして近年人口が急増しています。また、沖合の大坂湾では関西新空港の建設工事が1994年の開港に向け、急ピッチで進められており、この建設に伴い市内でも各地域で関連の事業が数多く行われています。

今般、本書で報告しますのも、こうした新空港関連事業の一環として計画されている都市計画道路の建設に伴うものであります。飯ノ峯畠遺跡は、これまでの調査で近世期の集落跡等が確認されています。今回の調査では、集落等生活と密接に関連するような遺構等は検出されませんでしたが、耕作に関係するものと思われる遺構が確認されました。

以下にその概要を報告いたします。末筆ではありますが、調査にご協力いただいた土地所有者ならびに関係者に感謝の意を表し、今後とも各種文化財の保護にご理解とご協力を賜りますよう、お願ひいたします。

1993年3月

阪南市教育委員会
教育長 庄司菊太郎

例　　言

1. 本書は阪南市が計画実施する、阪南都市計画道路事業箱作駅前線の建設工事に伴い、同市教育委員会社会教育課が担当実施した飯ノ峯遺跡発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、阪南市教育委員会社会教育課三好義三、田中早苗、上野 仁を担当者として実施した。
3. 本書内に示した標高は、T.P. であり、方位は既成の地形図等を使用したものと除いて磁北である。
4. 調査にあたっては、調査地の土地所有者等関係各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
5. 本書の執筆・編集は、三好が行った。また、実測図等の作成は上記の担当者をはじめ、下記の調査従事者による。
6. 本調査における記録は、実測図面・写真・カラースライド等に保存されている。当教育委員会にて保管しているので、広く活用されたい。

-調査従事者-

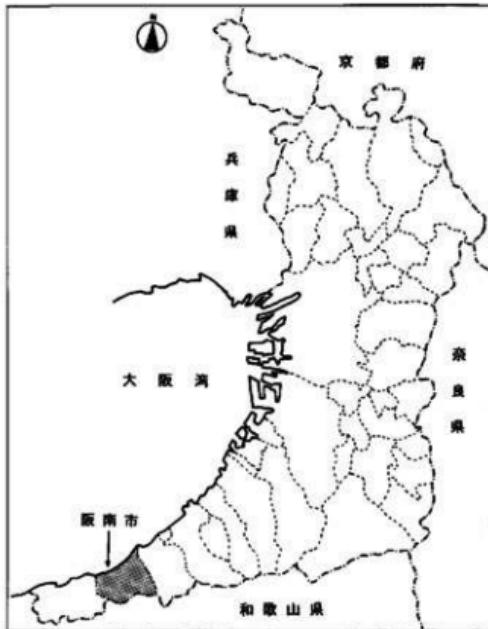
和田旬世、奥恵美子、戸崎美津弘、井上賢治、岸本栄次、岩崎真子、
丹羽 徹、福田義典、西奈緒子、宮本英美

一 目 次 一

第1章 調査に至る経過	1
第2章 歴史的環境	
第1節 阪南市内の歴史的環境	2
第2節 飯ノ峯遺跡周辺の歴史的環境	4
第3章 調査の成果	
第1節 調査の概要と遺構	6
第2節 出土遺物	10

第1章 調査に至る経過

阪南市は大阪府の南部に位置し、大阪市のベッドタウンとして人口が急増している。これに伴い住宅建設等の開発行為も依然増加傾向にある。さらに、現在建設中の関西新空港建設工事に伴う土砂採取事業跡地にも計画人口9,000人のニュータウン建設がなされようとしている。本書で報告を行う飯ノ峯遺跡は、既設の国道からこのニュータウンへの進入道路として計画されている都市計画道路により分断されようとしている。このため、阪南市事業部と同教育委員会が数年前より協議を重ね、建設工事着手までに調査を完了するべく、着手の2年前までに埋蔵文化財の確認調査（1次調査）を実施し、その存在が確認された地域については、本格的な調査（2次調査）を行うこととなった。こうした経過を経て実施した確認調査について、以下にその概要を報告する。



第1図 阪南市位置図

第2章 歴史的環境

第1節 阪南市内の歴史的環境

阪南市は、北を大阪湾に面し、南には和泉山脈がそびえる。この大阪湾と和泉山脈との間の狭小な平野が東西に拡がる。また市内の東端部を大阪湾に注ぐ男里川が流れ、扇状地的な平野を形成している。このため、生活の主な拠点が海浜部および男里川とその支流の沿岸部に集中している。

大阪湾に面した海浜部では、尾崎海岸遺跡で弥生時代後期～古墳時代にかけての製塩遺構が検出されている。貝掛遺跡では古墳時代～奈良時代の建物跡が確認され、泉州では唯一の奈良三彩も出土している。箱作今池遺跡は、古代～近世期の遺跡として知られ、中世期の漁撈関係遺物が多く出土することから、その当時からの漁村の存在が考えられている。田山遺跡は本市の最西端部に位置し、先の箱作今池遺跡と同じく漁撈関係遺物が確認されている他、縄文時代の石器や古代の製塩土器にまじり、和泉砂岩のコッパ（削り屑）等が出土している。半農半漁村的な集落の存在が想定されている^(註1)。

一方、男里川周辺では馬川北遺跡が同川の左岸に拡がり、縄文時代晚期～弥生時代の流路が検出され、これに伴い同時期の土器が出土している。向出遺跡は、同水系の山中川および井関川の段丘上に位置する。岩宿時代のポイントや石器等が分布調査で採集されている^(註2)のをはじめ、初期須恵器等が発掘調査で出土している^(註3)。神光寺（蓮池）遺跡では、縄文時代草創期の有茎尖頭器が採取されている^(註4)。また、同遺跡からは弥生時代中期の方形周溝墓が確認されている^(註5)。

今回の飯ノ峯畠遺跡は、上述した箱作今池遺跡の南に位置する。これらの遺跡の概要については次節で触れることにしたい。

(註1) 『田山遺跡』 (財)大阪文化財センター 1983年

(註2) 『阪南町埋蔵文化財分布調査概要Ⅰ』 阪南町教育委員会 1988年

(註3) 『阪南町埋蔵文化財調査概要Ⅲ』 阪南町教育委員会 1989年

(註4) 『阪南町史』上巻 阪南町 1983年

(註5) 『神光寺跡発掘調査報告書』 阪南町教育委員会 1982年



- 1 血田池古墳 37 版ノ墓道跡
 2 平野寺(長桑寺)跡 38 金剛寺道跡
 3 高田山古墳群 39 馬川遺跡
 4 雨山遺跡 40 內焰遺跡
 5 玉田山古墳群 41 下出北道跡
 6 玉田山遺跡 42 室堂遺跡
 7 寺田山遺跡 43 向出遺跡
 8 岩崎山遺跡 44 久保田道跡
 9 石田山遺跡 45 高田西道跡
 11 煤谷古墳群 46 高田南道跡
 16 箱作古墳 47 向山遺跡
 17 三味谷遺跡 48 小口谷道跡
 18 三升五合山遺跡 49 西堀遺跡
 19 貝掛遺跡 50 正方寺道跡
 20 光光寺(通池)遺跡 51 黒田南道跡
 22 田山遺跡 52 黒田西道跡
 24 箱作今池遺跡 53 烏取遺跡
 25 茶屋遺跡 54 烏取北道跡
 26 四郎太郎遺跡 55 烏取南道跡
 27 稲九遺跡 56 西鳥取道跡
 28 井山城跡 57 戸遺跡
 29 箱作ノハ石切場跡 58 田山東道跡
 30 郡道谷遺跡 59 箱作南道跡
 31 箱作細谷石切場跡 60 山中溪道跡
 32 玉田山須恵器窯跡 61 馬川北道跡
 34 井闇遺跡 62 和泉鳥取道跡
 35 自然田遺跡 63 福島遺跡
 36 箱作山屋谷石切場跡 64 下出遺跡

第2回 南市内埋蔵文化財分布図

第2節 飯ノ峯畠遺跡周辺の歴史的環境

飯ノ峯畠遺跡は、茶屋川水系飯ノ峯川が形成した谷に拡がる遺跡である。関西新空港建設工事に伴い、1985年度に(財)大阪府埋蔵文化財協会により実施された分布調査により周知された(註1)。

同協会によるこれまでの調査では、文献で近世末期に洪水で流された事が知られていた集落跡が確認された。この集落は、やはり同協会により調査が行われた箱作ミノバ石切場跡をその操業の場としていた石工の生活の場として捉えられている(註2)。

一方、飯ノ峯川の下流に拡がる平野部には箱作今池遺跡が存在する。既往の調査から、古代から近世にかけての遺跡として知られている。遺跡内の多くの地点で遺物包含層の存在が確認されている。88-2区、92-4区、92-9区等の調査については、本市教育委員会の調査報告を参照されたい(註3)。91-2区では、5トレンチや10トレンチでピットが検出され、建物跡の存在が想定されている。この他21トレンチでは、中世期の流路が、6および14aトレンチでは、明確な時期は判然としないものの溝が確認されている(註4)。

以上のように、飯ノ峯畠遺跡内の調査は近世期の集落が確認された事以外は、特筆すべき事項はないが、今回の調査により同遺跡の性格をより一層明らかになる可能性を含め調査を実施した。

(註1) 『阪南町内埋蔵文化財』 (財)大阪府埋蔵文化財協会 1985年

(註2) 『井山城跡』 (財)大阪府埋蔵文化財協会 1988年

『ミノバ石切場跡』 (財)大阪府埋蔵文化財協会 1988年

(註3) 『阪南町埋蔵文化財調査概要IV』 阪南町教育委員会 1989年

『阪南市埋蔵文化財調査概要VII』 阪南市教育委員会 1993年

(註4) 『箱作今池遺跡』 阪南市教育委員会 1992年



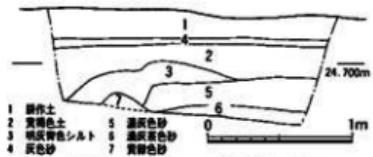
第3図 飯ノ峯畠遺跡調査区位置および箱作今池遺跡内既往の調査区

第3章 調査の成果

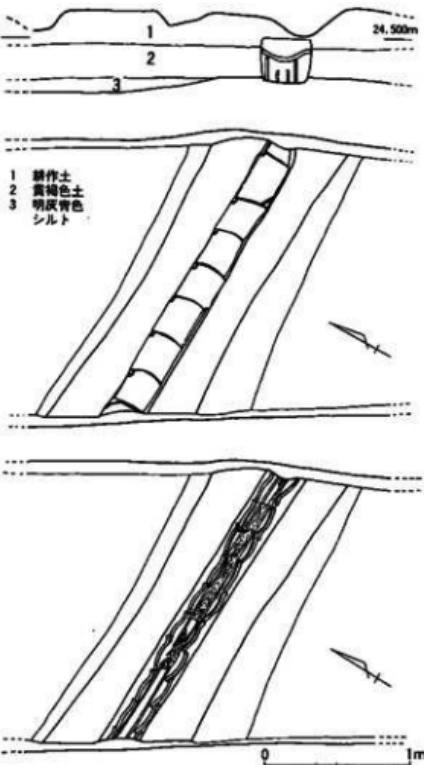
第1節 調査の概要と遺構

- 1 トレンチ -

2m × 20mの調査区を設定して調査を実施した。耕作土（第1層）以下の基本的な層序は、第2層黄褐色土、第3層明灰青色シルトであった。トレンチの中央部分で第2層上面を切り込む暗渠を検出した。この暗渠は幅25~30cm、深さ30cm程度の溝の両側に瓦を立て、幅約10cmの木製の樋管を通して、ふたとして瓦を利用したもの



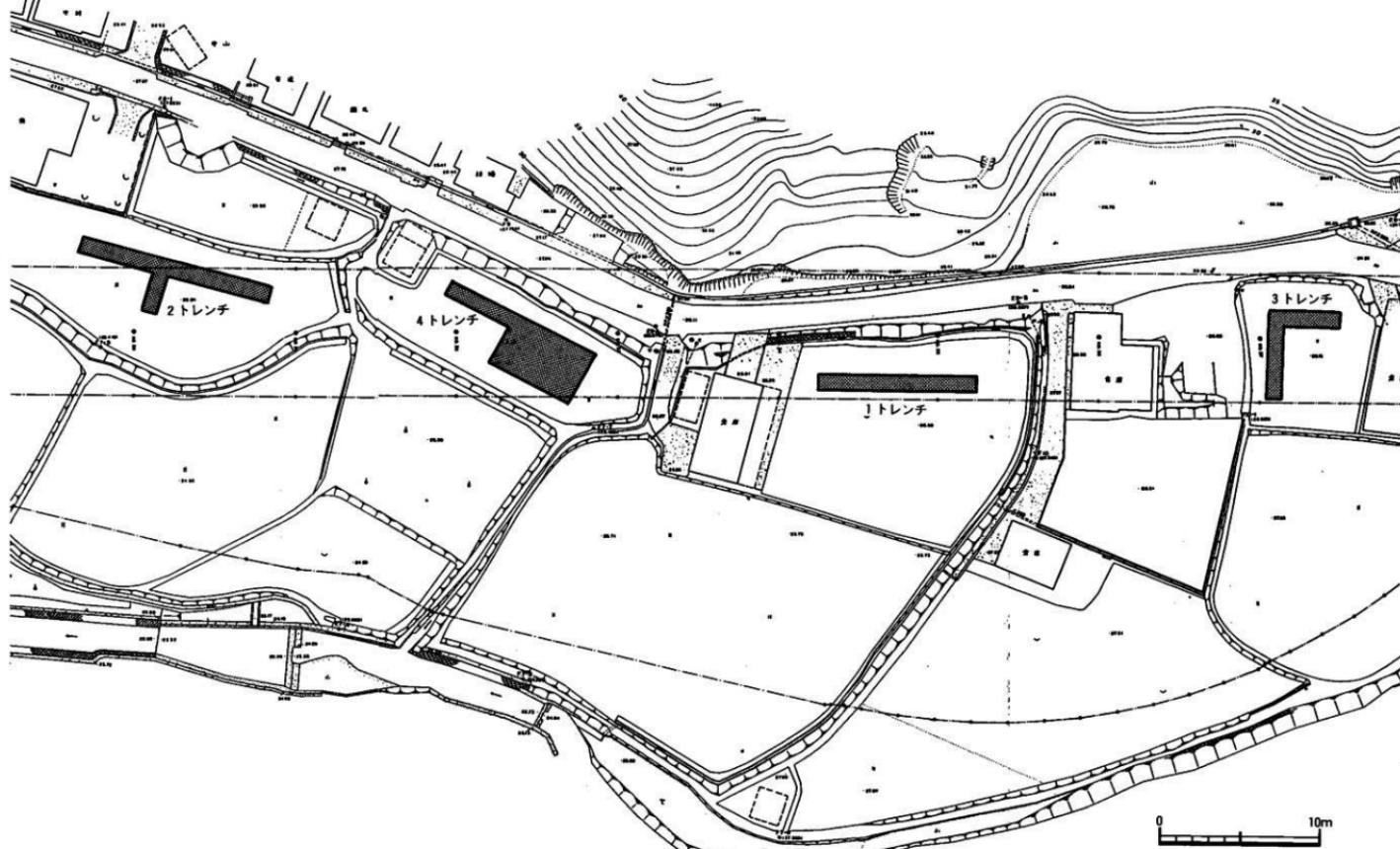
第4図 1 トレンチ南側断面図



第5図 1 トレンチ暗渠付近平面図・東側断面図

であった。土地所有者によれば、昭和初期に作られたが、現在も使用しており、畑の排水のためのものであることであった。

また後述するが、これらの瓦のうち数枚に瓦の製造業者を示す刻印がみられた。この刻印は3種類あり、3社以上の瓦を使用していたようである。この飯ノ峯畑遺跡より北に拡がる畠作地区周辺が、近世以降近代にかけて瓦の製造業が盛んであり、製造業者も数多く存在していたことが文献等により知られている。地元で製造された瓦を転用したと考えられる。



第6図 トレンチ設定図

- 2 トレンチ -

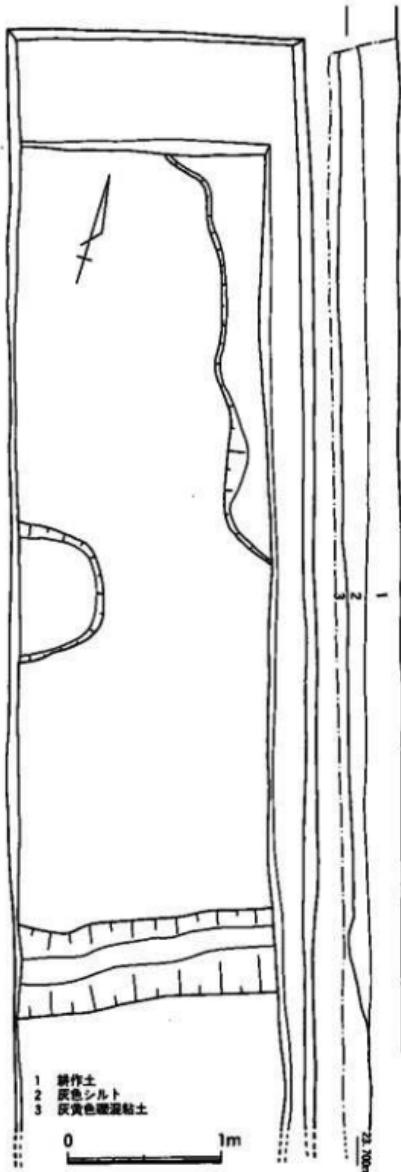
今回の調査で設定した4箇所のトレンチのうち、最も北側に位置する。2m×25mおよび2m×6mのトレンチをT字型に設定して調査を行った。耕作土以下の層序は、第2層灰色シルト、第3層灰黄色疊混粘土で、この第3層は無遺物層であった。トレンチ北側部分の第3層上面で数条の溝、落ち込みを検出した。検出面からの深さが数cm程度であったこと、いずれの埋土も第2層灰色シルトであったことなどから、近年の耕作に伴うものであると思われる。

第2層から石鎌が2点出土している。この他、須恵器や瓦器、土師器、青磁等が検出されている。

- 3 トレンチ -

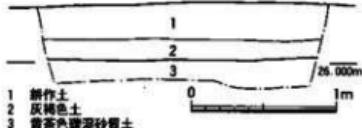
最も南側に設定したトレンチである。2m×11mと2m×7mのトレンチをL字型に配置して調査を行った。耕作土以下の基本的な層序は、第2層灰褐色土、第3層黄茶色疊混砂質土（無遺物層）であった。

トレンチの西側部分でピットを検出したが、耕作関係の落ち込みと考えられる。



第7図 2トレンチ平面図・東側断面図

遺物としては、陶磁器、土師器等のほか、スサ入り粘土塊が出土している。



第8図 3トレンチ南側断面図

- 4 トレンチ -

2m×20mと2m×5mのトレンチをL字

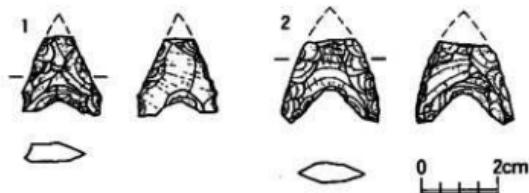
型に配置して調査を行った。この調査により、以下に述べる遺構が検出されたため、南側部分について5m×9mの範囲を拡張し調査を実施した。耕作土以下の層序は、第10図に示したとおりである。遺構としては、第2層上面で、東西方向に延びる溝、南北方向に延びる溝をそれぞれ2本ずつ検出した。後者については、検出面からの深さが数cm程度で、埋土が第2層と同じであったため、鋤溝であると思われる。また、前者の2本の溝はいずれも幅約40cm、検出面からの深さ25~30cm、埋土も同じ灰褐色礫混土であった。埋土の状態、溝の規模等からほぼ同じ性格の溝であると考えられる。溝の底の埋土は、水分を含んだ砂層であったため、埋没以前は常態として水が流れていたと判断される。

遺物としては須恵器や陶磁器の他、瓦、土師質土器の小皿等が出土している。

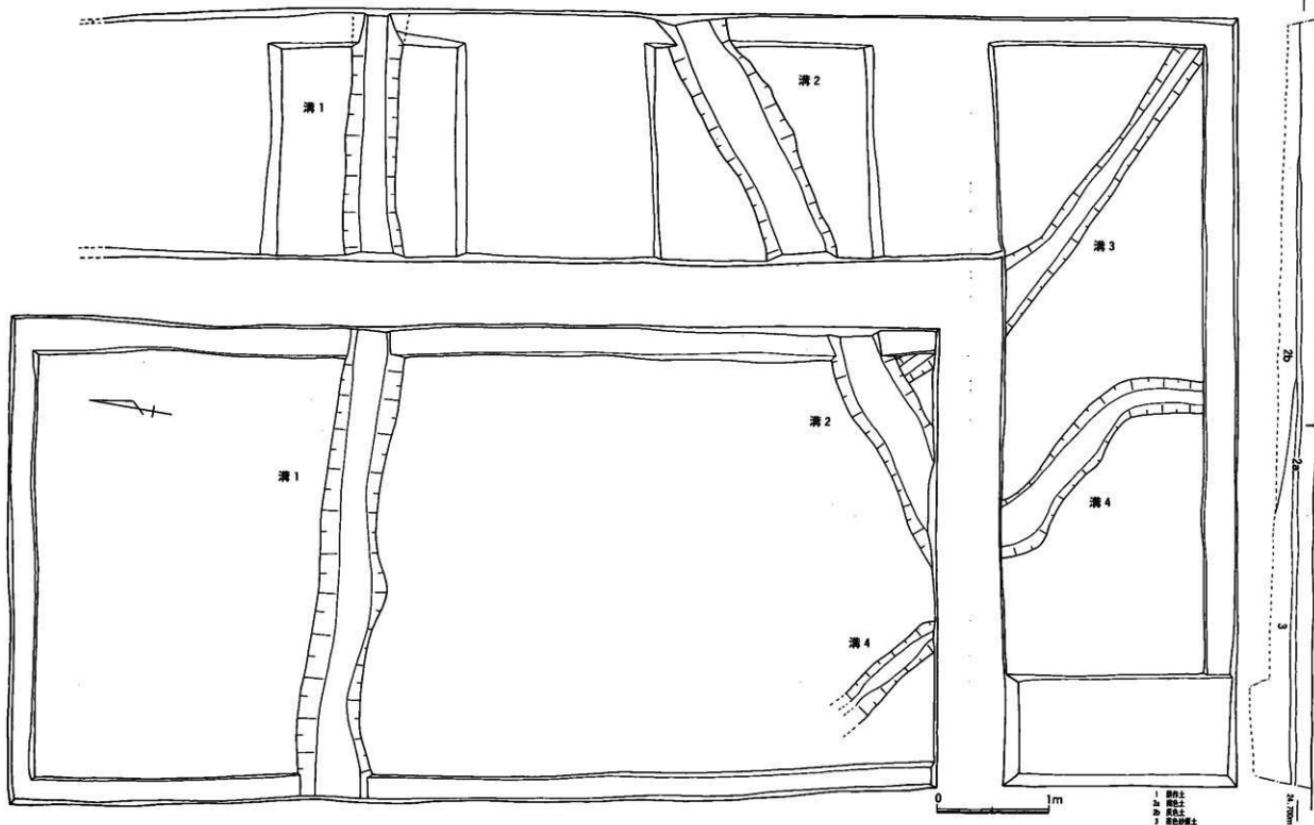
第2節 出土遺物

[石器]

1・2はともに
石鎌である。サス
カイト製で、先端
部は欠損している。
とともに2トレンチ
から出土した。



第9図 出土遺物 [石器]



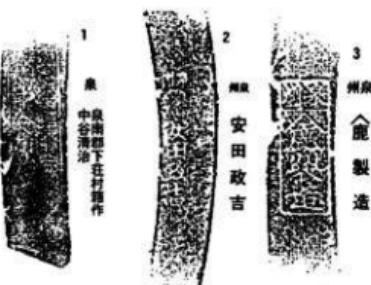
[土器]

1は、土師質土器の高台部である。
2はいわゆる青磁蓮弁碗で、13~14世紀の産と比定されている。3は瓦器碗、4は瓦器皿である。5は陶器のすり鉢である。6・7は磁器で、6は伊万里焼の染付であろう。



第11図 出土遺物〔土器〕

第12図は、前述したが、1トレンチで検出された暗渠で使用されていた瓦にみられた刻印の拓本である。製造者を示すものと思われる。1は「箱作」とあり、地元の業者と判明する。2について、周辺の聞き取り調査では「安田政吉」氏も箱作の業者とのことである。いずれにしても、



第12図 1トレンチ出土瓦刻印

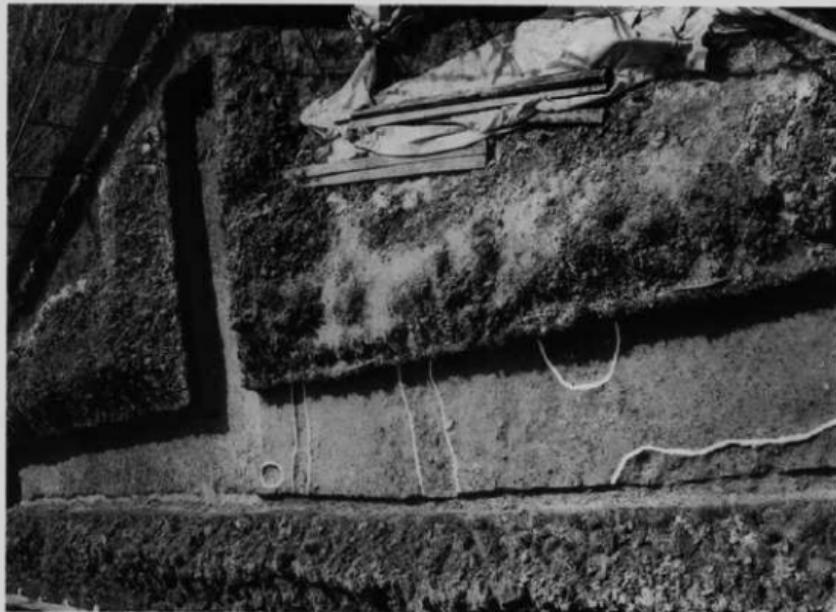
この「飯ノ峯焼」を包括する箱作地区には、近世期から瓦製造業者が数多く存在し、1960年代頃まで操業していたとのことである。西方の田山西遺跡の海岸部には、瓦を焼成していたいわゆる「ダルマ窯」の窯跡が存在している。



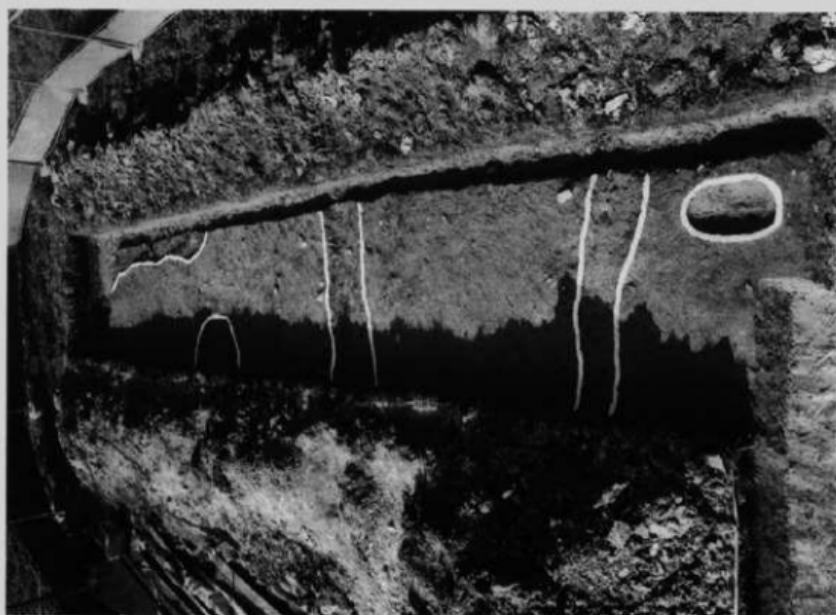
1 トレンチ全景(北より)



1 トレンチ 暗渠(東より)



2 トレンチ全景(北より)



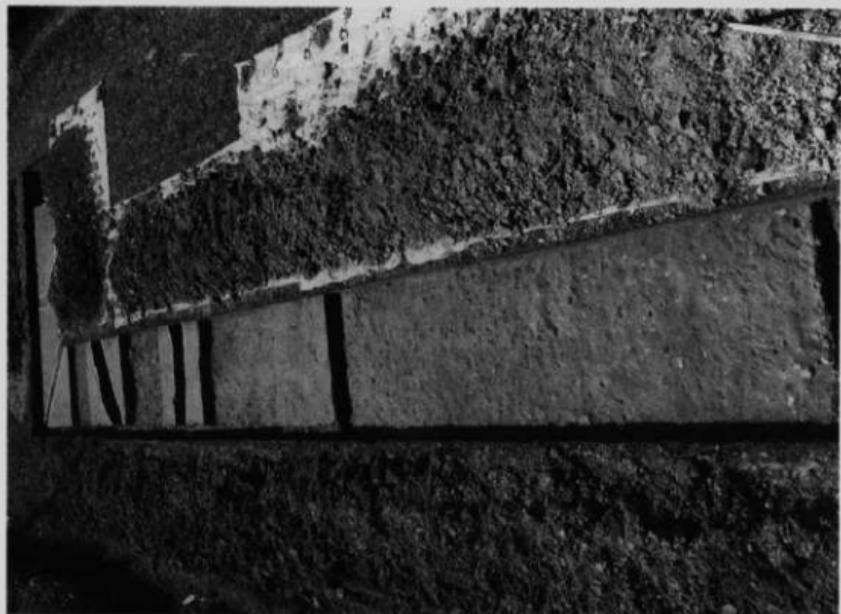
2 トレンチ北部全景(南より)



2 トレンチより土砂採取地方面をのぞむ



3 トレンチ全景(西より)



4 トレンチ全景(北より)



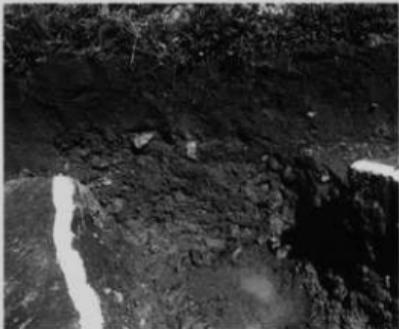
4 トレンチ 遺構(東より)



4 トレンチ 溝1・2(東より)



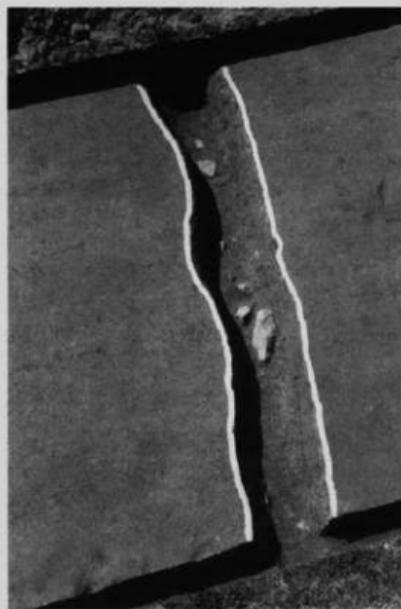
4 トレンチ 溝1 断面



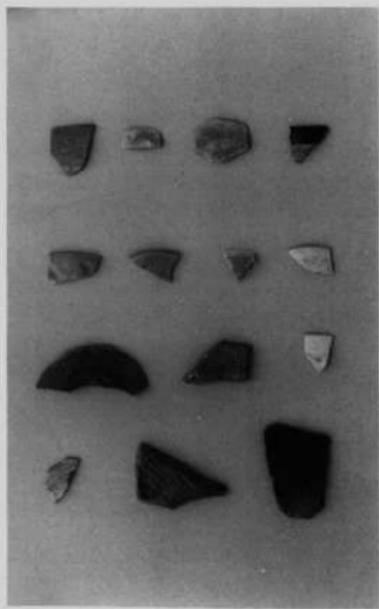
4 トレンチ 溝2 断面



4 トレンチ拡張部全景(北より)



4 トレンチ拡張部 溝 1(東より)



出土遺物

阪南市埋蔵文化財報告XVII

飯ノ峯烟遣跡

—阪南都市計画道路事業箱作駅前線建設に伴う埋蔵文化財調査概要—

1993年3月

発行：阪南市教育委員会社会教育課
大阪府阪南市尾崎町35の1

印刷者：西岡総合印刷株式会社
和歌山市吹屋町5丁目54